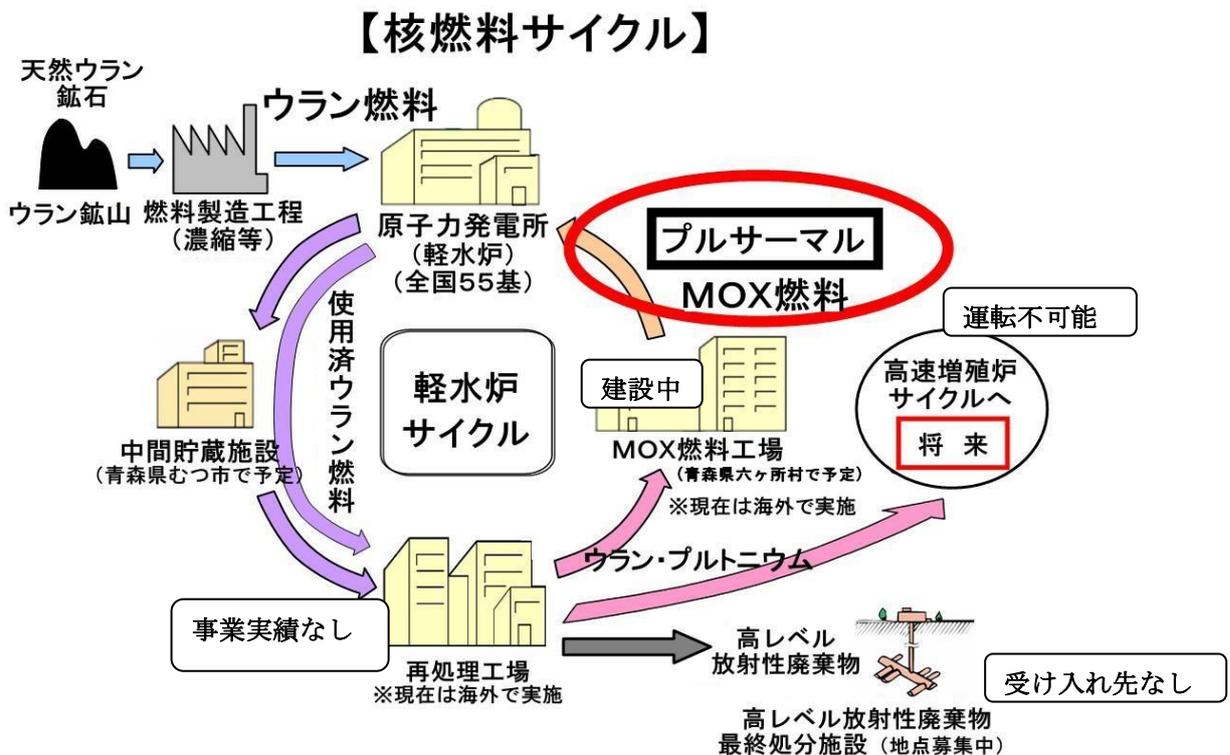


なぜこんなに溜まった使用済み燃料

日本は使用済み燃料から取り出したプルトニウムを、高速増殖炉「もんじゅ」で再利用する核燃料サイクルを原子力政策の要としている。しかし、「もんじゅ」は1983年に着工、これまで約2兆円の費用をかけたが、1995年発電を開始して3カ月あまりでナトリウム漏れ事故を起こした。2010年ようやく再開しようとしたが大型クレーンが落下し、今後もまったく稼働の見込みはない。

また、使用済み燃料からプルトニウムを取り出す再処理工場は1993年に工事を開始し、2005年に竣工予定だったが、技術的なトラブルが続き、2012年までに工程の延期は19回に及ぶ。現在も事業を開始していない。つまり下の核燃料サイクルの図で実際に稼働しているのは燃料製造工程と原子力発電所と中間貯蔵施設だけである。



(原画北海道 HP より、一部加工)

一方、これまで使用済み核燃料の再処理をイギリスとフランスに依頼していたために大量のプルトニウムが余ることになった。そこで登場したのがウランとプルトニウムを混ぜて使用する MOX 燃料だ。もともとウラン燃料を想定して設計された原子炉をプルトニウム入りの燃料を使うということだけでも多くの問題がある。反対運動は各地にあったが、電力会社は推し進めた。MOX 燃料使用実績は以下のとおり。

九州電力玄海原子力発電所 3号機	2009年11月5日から2010年12月11日に停止
四国電力伊方原子力発電所 3号機	2010年3月2日から2011年4月29日に停止。
東京電力福島第一原子力発電所 3号機	2010年9月18日から2011年3月11日。爆発事故
関西電力高浜原子力発電所 3号機	2010年12月25日から2012年2月20日に停止。

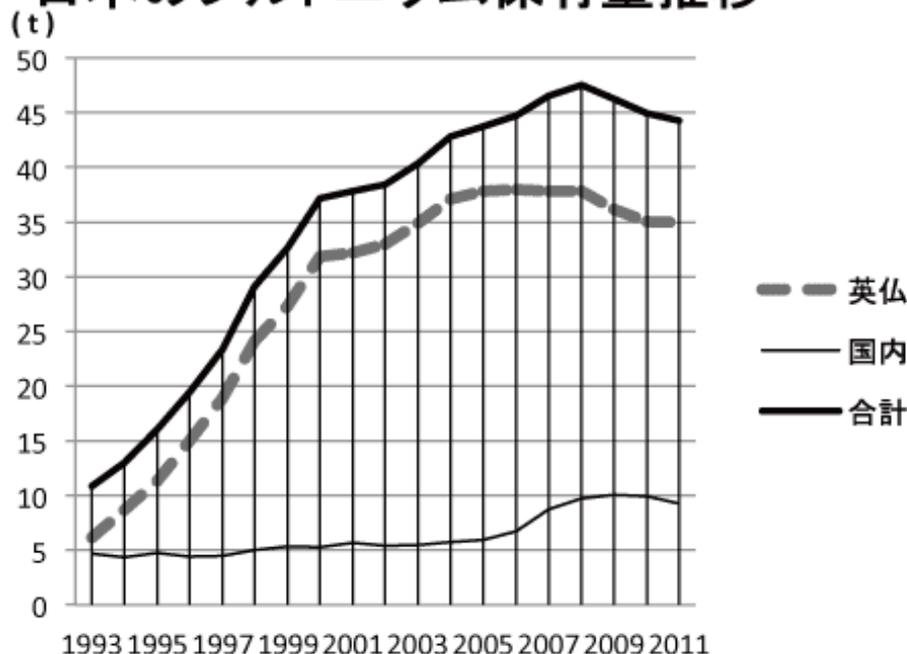
核兵器 1100 発分のプルトニウム

そんなに貯めてどうする？

原子力政策というのは核政策とセットなわけですね。ですけども、日本は核を持つべきだと私は思っておりません。しかし同時に、日本は（核を）作ろうと思えばいつでも作れる。1年以内に作れると。それはひとつの抑止力ではあるのでしょうか。それを本当に放棄していいのですかということ、それこそもっと突き詰めた議論が必要だと思うし、私は放棄すべきだとは思わない。

8月16日テレビ朝日「報道ステーション」における自民党石破茂議員の発言

日本のプルトニウム保有量推移



「核情報」 http://kakujoho.net/ndata/pu_jp.html

日本は1997年「余剰プルトニウムを持たないとの原則を堅持している」ことを国際原子力機関（IAEA）に通知し国際的に宣言している。しかし余剰プルトニウムは増え続けている。2011年には国内に9.3トン、フランスとイギリスに35トン、合計44.3トンのプルトニウムを保有している。

4kgのプルトニウムで核兵器が作れるとされる。従って保有するプルトニウムを核兵器に換算すると1100発分に相当する。ただし、使用済み燃料からプルトニウムを分離しても、さまざまなプルトニウムが混在するため、すぐに核兵器を作ることは技術的に難しいとされている。石破氏の発言はそれも視野に入れているのかもしれない。